

▼東海

「歩こう会」

岡崎・八丁味噌蔵と岡崎公園

郡 修児(TVA)

「歩こう会」はコロナ禍がやや落ち着きを見せてきたことから春たけなわの4月14日、岡崎市内の八丁味噌蔵と岡崎公園を歩くウォーキングを開催しました。

コロナ禍でシニア層の外出やウォーキングの機会が減っていることを考慮し、今回は会報『東海民放クラブニュース』を通じて、「歩こう会」のメンバーだけに限定せず、東海民放クラブの会員ならだれでも参加できるオープン・スタイルで実施してみました。

岡崎市は三河地方を代表する歴史と文化を誇る古都。某テレビ局の大河ドラマ『どうする家康』の主人公である徳川家康・生誕の地ということで、今年は観光ブームが盛り上がりを見せています。

当日はやや曇り空ではありませんでしたが、定刻の午前9時半までに名鉄名古屋本線・岡崎公園前駅に集合し、元気にスタートを

切りました。ただ、残念ながら参加者は7人だけ(歩こう会会員はうち3人)。まだ外出に慎重な会員が多かったようです。

最初に向かったのは、地元の名産品である八丁味噌蔵「カクキュー八丁味噌の郷」。岡崎城から西へ八丁(約870m)の距離にある八帖町(はつちようちよう)で作られていることから八丁味噌と呼ばれるようになったもので、大豆と塩だけを原料に、2年以上味噌を熟成させる普通の手間暇かけた製法を守るメーカーは2社だけ。「カクキュー」はその1社で、1645年創業のまさに老舗の味噌メーカーです。



社員ガイドさんの流ちょうな

解説を聞きながら、資料館を中心に、重石3トン・味噌6トン仕込みの大きな樽が並ぶ熟成蔵など、たつぷりと時間をかけて見学しました。最後にサービスの味噌汁を一杯いただき、思わずお土産に本場の赤だし味噌を買ってしまったメンバーも。ガイドさんの名調子につられたようです。

続いて1kmほど歩いて岡崎公園へ。岡崎城のある岡崎公園は、愛知県下で有数の桜の名所。例年なら4月中旬でも多少は花見を楽しむことができるのですが、今年は異常なほど開花が早く、残念ながら全くと葉桜。

ただ今回は、岡崎城から100mの場所に住むという、まさに地元の吉田正平会員(CBC)が参加されていたことで大いに救われました。吉田会員のご案内で、城の反対側にある「五万石の藤」を堪能できました。満開というわけではありませんでしたが、7つの大株から柵一杯に広がる薄紫色の可

憐さが美しく際立っていました。知らなければ気づかずに通り過ぎるようなところ、ラッキーでした。

「岡崎 大河ドラマ館」と「岡崎城」は参加者の自由見学とし、城内で現地解散。男性陣の4人は岡崎公園を堪能した後、連れ立って名鉄東岡崎駅に向かうことになりましたが、途中の寿司屋で腹ごしらえすることに。ビールで花見酒も楽しみ、充実した半日を過ごしました。



大きな八丁味噌樽の前で